

## OPENWAY FT UNIX 版 (Ver3.2 Rev70) リリースノート

OPENWAY FT UNIX 版 (Ver3.2 Rev70) では、Ver3.2Rev60(HP-UX 版、AIX 版、Solaris 版) に対して以下の仕様変更・改善、および不具合対応を行っています。

### 仕様変更・改善

#### [1] 進捗状況の確認 (u@ftpstat) コマンドにおけるリカバリ状態の表示追加

リカバリ実行中の相手ホストに対してリカバリプロセスが起動中であることを示す表示 "R" およびリカバリプロセスが停止中であることを示す "RS" を出力させるように致しました。以下は出力例です。

```
< マシン状態 >   接続マシン数:2
TSHOSTA   : DEAD   2008/03/31 17:14:23 R
TSHOSTB   : DEAD   2008/03/31 16:14:15 RS
```

#### [2] ジョブ起動モジュール (u@ftpjobs) のプログラム化

ジョブを起動する中間モジュールである u@ftpjobs は従来シェルスクリプトで提供していましたが、今回から実行モジュール (プログラム) に変更しています。これに伴い、ジョブの実行戻り値が進捗ログにて確認可能となっています。

#### [3] ログ出力の追加/改善

- ・ 以下のコマンドについては実行されたことを示す開始ログが出力されるように致しました。  
u@ftpsupd, u@ftpset, u@ftpkick, u@ftpschk, uftp
- ・ uftpdwn (仕掛り処理の自動再開機能) ではプログラム開始を示す進捗ログが出力されますが、同プログラムの異常終了時には処理の終了を示す進捗ログが出力されないケースがあったため、これをログが出力されるように改善いたしました。
- ・ 相手ホストのマシントイプが "FJ-K" (ASP 版/GRANPOWER6000 版) で設定されている場合は FJ-K 用の通信ログ (RDY 電文) が出力されるように変更しました。また、エラー時にも "FJ-K" 設定の場合は "FJ-K" 設定であることを示す付加メッセージを追加しています。これは設定ミスの原因等を特定しやすくするための改善となります。

#### [4] ホスト情報メンテナンスツール (U@ftpHOST, u@ftphst) の改善

ホスト情報メンテナンスツール (U@ftpHOST, u@ftphst) について次の改善を行っております。

- ・ U@ftpHOST コマンドにて処理選択時の (誤った入力による) エラー発生時に通常メッセージとともに不要な標準エラー出力が出力されていたため、これを出力されないように修正しています。
  - ・ 登録時のホスト名入力後にホスト名に対して制御文字が入らないようにチェックをするよう改善いたしました。
- [5] ファイル識別情報メンテナンスツール (u@ftpk00, u@ftpknr) の改善  
登録時のファイル識別名入力後にファイル識別名に対して制御文字が入らないようにチェックをするよう改善いたしました。
- [6] シェルコマンド内の LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数セット処理の削除  
シェルコマンド全般において、LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数に \$TOOLS\_PATH/lib をセットする処理が存在していましたが、\$TOOLS\_PATH/lib は現在、インストールディレクトリに含まれておらず、また他のアプリケーションとの競合を避けるため、この処理を外しています。
- [7] ビープ音機能のシェルモジュールの廃止 (実行モジュールへの付け替え)  
一部コマンドではビープ音の発生に u@beep シェルスクリプトを使用するように実装されていましたが、ビープ音機能の実行モジュールを使用するように統一しました。これに伴い以下のモジュールの提供を廃止しております。  
u@beep, u@sound
- [8] u@ftpkick コマンドにおける戻り値の変更  
u@ftpkick コマンドの戻り値について以下の修正を行っております。
- ・ リカバリ対象のエラーが発生した場合は '63' を戻り値とするように統一いたしました。
  - ・ ステータス追い越し発生時の戻り値は異常値としていましたが、正常値 (5) となるよう変更しています。
- [9] ソケットサーバにおけるソケット初期化および定義異常発生時の詳細エラー出力  
ソケットサーバにてソケット初期化異常 (0301E) またはソケット定義異常 (0302E) が発生した場合に内部 (システム) エラー番号を取得し、エラーログに出力するよう改善いたしました。
- [10] FTP メッセージファイル入出力異常 (0125E) 発生時の詳細エラー取得改善  
FTP 結果チェックにおいて 0125E が発生した場合、その原因がファイル I/O エラー以外で

あった場合は付加メッセージとして “Abnormal format!” が出力されるように変更いたしました。以下は出力例になります。

```
TSFID001 0125E FTP メッセージファイル入出力異常!! : /home/owft/src/uftpschk.msg
Abnormal format!
```

#### 【11】自動リカバリ機能の機能追加および改善

- ・ U@ftpBOOT コマンドにおいてパラメータ異常が発生した場合にエラー原因にそぐわないエラーメッセージ “0105E” が出力されていましたが、これを直接的な原因を示す “0201E” が出力されるように変更しております。
- ・ リカバリプロセスが仕掛け処理の自動再開により2重起動されるケースがありましたが、後から起動されたりリカバリプロセスのみ有効となるように処理改善いたしました。
- ・ 自動リカバリが無効(n)で設定されている場合、以下の環境変数を “ACTIVE” で設定すると、相手ホストへの通信異常が発生しても相手ホストの状態を DEAD にはせず、ACTIVE のままにします。

TOOLS\_OFFMCNSTAT

本機能は自動リカバリを使用せず、ジョブ管理ツールなどでリトライ制御を行っている場合などに便利です。

#### 【12】ユーティリティの機能追加および改善

- ・ 文字コード変換ユーティリティ (uconvuth) のパック 10 進およびゾーン 10 進においてホスト側マイナス表記を変更するオプションを追加しました。新たに追加されたオプションは以下になります。

追加オプション	説明
-spac_pf	パック 10 進変換において符号有りで正の場合に符号をあらわす 4 ビットは[f]にします
-pac_f	パック 10 進変換において符号無の場合に符号をあらわす 4 ビットは[f]にします
-szone_pf	ゾーン 10 進変換において符号有りで正の場合に符号をあらわす 4 ビットは[f]にします

- ・ `-fix`(レコード変換指定)および `-Fxx`(項目区切り指定)のオプションについては本来、同時には指定できませんが、`-fix Fxx`の順で指定された場合、項目区切りが有効となっていたため、同時指定の場合には必ず `fix` のみが有効となるように変更しました。対象モジュールは `uconvuth,uconvhtu` になります。
- ・ ユーティリティモジュール(`uconvuth,uconvhtu,uftpcomp,uftpexp,uconvets,uconvste`)にて、ログにファイル識別名を出力させるための環境変数 `TOOLS_FILEID(fileid)`の設定値を取得時に文字数チェックはありませんでしたが、大量文字数をセットされるとログ内容が正常に出力されなくなるケースがあるため、セットされている文字の 8 文字までを出力するように致しました。また、空白セットの場合は不備が確認されているため、プログラム名が出力されるように修正しております。

#### 【13】 サンプルファイルの追加と見直し

- ・ 以下のサンプルファイルを追加しています。  
`RR4.FTP_GET` … 受信側 FTP GET のサンプルジョブ
- ・ 以下の既存サンプルファイルについては停止処理を追加しています。  
`owft.SOL`, `owft.HPU`
- ・ 以下のサンプルファイルについては内容を見直し、`uconvste,uconvets` のケースについても追加しております。  
`cnvcmp.sh`, `expcnv.sh`

#### 不具合対応

- 【1】 ホスト情報、ファイル識別情報メンテナンスツール(`U@ftpk00`)およびホスト名一括変換コマンド(`u@ftpchgst`)における不備(`core` ファイル発生)の修正  
各項目で大量バイトを指定して入力すると `core` ファイルが発生する問題について修正を行いました。
- 【2】 ファイル識別情報メンテナンスツール(`u@ftpk00`)における表示不備  
英語モードにて送信データ作成ジョブ(`Data transfer job_id`)と受信データ作成ジョブ(`Data receiving job_id`)の項目名が逆になっていた不具合を修正いたしました。
- 【3】 ファイル識別情報メンテナンスツール(`u@ftpk00`)におけるジョブ名の空白チェック強化  
送受信区分を `'RR'` から `'SS'` に変更した場合は送信ジョブ名に空白をセットすることも可能でしたが、これを空白がセットされた際にはエラーとするように修正を行いました。

- 【4】 FTP 結果チェック (u@ftpschk) における詳細エラー取得時不備の修正  
FTP 結果ログファイル作成時の内部 (システム) エラーが FTP 結果チェックでの内部 (システム) エラー番号として出力されてしまう不具合を修正しました。
- 【5】 FTP 結果チェック (u@ftpschk) におけるエラー対象メッセージの追加  
FTP 転送中に ftp プロセスが SIGINT シグナルを受信した場合に、FTP の転送は途中終了しますが、FTP 結果チェックではこれを正常と判定する事がありました。この場合、OS から出力されるメッセージは以下のいずれかとなります。
- ・ 送信が異常終了しました
  - ・ send aborted
- このため、上記メッセージが出力された場合は FTP 結果チェックにてエラーと判定するように致しました。
- 【6】 コード変換ユーティリティの不具合対応
- ・ 1バイト特殊変換ファイルオープンエラー発生時にコマンドの戻り値が0(正常)となり、処理が継続されてしまう不具合を修正しました。
  - ・ 項目区切りの無いデータに対して項目区切り指定 (-Fxx) を行った場合、core ファイルが発生して異常終了するケースがありましたが、エラーで終了するように修正を行いました。対象モジュールは uconvuth になります。